

# 令和元年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

## 算数

	指導上の課題の分析	指導のめあて	授業改善の視点	評価（成果と課題）
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学年までの学習を概ね習得できており、友達と進んで交流できる児童が多い。</li> <li>・ 違う解法を考えたり、学んだことを活用することがやや苦手な面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>基礎</u>を確実に習得させる。</li> <li>・ 自分の考えを他者に<u>伝える力</u>を伸ばす。</li> <li>・ 考えを広げ、<u>活用する力</u>を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童どうしが「なぜそのように考えたのか」を相手の立場で考え、説明し合うことで、様々な考えに気付き広げる指導をする。</li> <li>・ 図、絵、式、文章などを使い、自分の考えをよりわかりやすく伝えるときに、ペアや全体で発表する際のポイントも指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元によって、既習の学習を繰り返し行い、基礎学習を身につけるようにした。</li> <li>・ 「計算式はこうだ。」という認識のみでなく、自分の考えをクラスの児童へ説明することで、算数的思考を深めた。</li> <li>・ 得意な児童が苦手な児童へ教える姿もよく見られた。</li> <li>・ 塾通い等、得意、苦手というように大いに差が見られたので、習熟度別での一人一人の進度を踏まえた指導が課題である。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>前学年までの学習は概ね習得できている。</li> <li>問題は解けるが、自分の考え方や理由をわかりやすく伝えるのが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>基礎</u>を確実に習得させる。</li> <li>自分の考えを他者に<u>伝える力</u>を伸ばす。</li> <li>考えを広げ、<u>活用する力</u>を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図、絵、式、文章などを使って自分の考えを効果的に表現するとともに、正しい用語を用い、ペアや全体で発表する際のポイントも指導していく。</li> <li>児童どうしが「なぜそのように考えたのか」を相手の立場で考え、説明し合うことで学び合い、表現力を磨けるよう指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明することに慣れてきている様子だが、まだ苦手な児童もかなりいるため、単元によっては挙手が極端に減る時がある。</li> <li>数直線や、線分図、グラフ、その他、自分なりに分かりやすい図を描いて、黒板やWBを使って他者への表現力が徐々に身についている。</li> <li>児童同士の意見に反応できるようになってきた。</li> <li>思考力、表現力と少しずつ身につけているが、うまく説明できない時にはどうしたらよいか、解決の部分で考え方がもてるようにより多くの支援が必要である。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の習得が不十分な児童と、塾通い等で学習が先行している児童の二極化が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>基礎</u>を確実に習得させる。</li> <li>自分の考えを他者に<u>伝える力</u>を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元間のつながりを意識して既習事項を復習し、積極的につまづきを解消する。</li> <li>自分が問題を解けたことで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挙手に関して、全体的に消極的ではあるが、単元によっては徐々に発言の回数も増え、自分の考えも表現できるようになった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く取り組むことができる一方で、他者と考えを伝え合おうという姿勢に欠ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを広げ、<u>活用する力</u>を育てる。</li> </ul>	<p>満足するのではなく、協力して様々な解法を考えたり、相手の考えを代弁する活動等を通して学び合い、違いを尊重する姿勢を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない問題にも教師に質問や友達と相談することで、そのままにせず積極的に取り組む姿も見られた。</li> <li>・自力解決の場面で、難しい問題等、悩んだ時に複数の考えがもてるように支援を行い、より深く理解できるようにしたい。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の習得が不十分な児童と、塾通い等で学習が先行している児童の二極化が見られる。</li> <li>・図、絵、式、文などで自分の考えをまとめることができる一方で、聞き手にわかりやすく伝える意識がやや不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>基礎</u>を確実に習得させる。</li> <li>・自分の考えを他者に<u>伝える力</u>を伸ばす。</li> <li>・考えを広げ、<u>活用する力</u>を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元間のつながりを意識して既習事項を復習し、積極的につまづきを解消する。</li> <li>・正しい用語を用い、ペアや全体で発表する際のポイントを指導していく。</li> <li>・グループ全体で教え合っ一つの考え方を導き、発表する活動等を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項で忘れていたことあったので、復習問題などプリントを活用して解決した。</li> <li>・また、意欲にムラがあるので教師の授業の工夫が必要である。</li> <li>・習熟度の高い児童に対して、学習の進度を踏まえ課題の設定が課題である。</li> </ul>